

ぐるり30

～自治調査会だより～

2014
3

NO. 006

[発行日]
2014.3.1



【タイトル】春浅し 【撮影者】仲條年春（青梅市） 【撮影場所】青梅市

- ▶ 多摩東京移管 120 周年記念シンポジウム 終了報告 2
- ▶ シリーズ 島しょ地域の魅力を紹介！ 3
 - 第 9 回（最終回）小笠原村
- ▶ 平成26年度 調査研究テーマについて 8
- ▶ 多摩地域データブック～多摩地域主要統計表～
2013（平成 25）年版を発行します 9
- ▶ 多摩交流センターだより
 - ・多摩発・遠隔生涯学習講座 10
 - ・東京雑学大学講義案内 10
 - ・TAMA市民塾・日曜講座のお知らせ 11
- ▶ 編集後記 11
- ▶ とっておき特産物 第 34 回 日の出町 12

Contents

3月の内容

公益財団法人

東京市町村自治調査会



多摩東京移管120周年

多摩の魅力発信プロジェクト

終了報告

多摩東京移管120周年記念
シンポジウム

たまには多摩の話を

～知れば知るほど好きになる～

今年度は、多摩地域が東京へ移管されてから120周年に当たります。皆さん、今の多摩地域は、昔、神奈川県に属していたことを知っていましたか？なぜ、明治時代の中期に東京府（現在の東京都）へ移管されたのでしょうか？既にご存知の方もいらっしゃると思いますが、水源の一体的管理の必要性が理由のひとつとされています。

今日まで、多摩地域が歴史の大きなうねりに翻弄されながらも着実に発展を遂げてきた過程を振り返りつつ、その魅力や将来について考えるきっかけとなるよう、去る2月3日（月）に、「たまには多摩の話を～知れば知るほど好きになる～」と題して、当調査会主催のシンポジウムを小金井市民交流センター大ホールで開催しました。

シンポジウムは2部構成となっており、まず、主催者代表者として当調査会の理事長である竹内青梅市長から、また開催地代表者として稲葉小金井市長から挨拶がありました。

第1部では、作家の嵐山光三郎さんをコーディネーター兼プレゼンターとして、平野啓子さん（語り部・かたりすと、美しい多摩川フォーラム副会長）、臼井努さん（京西テクノス株式会社代表取締役社長）、増山修さん（画家・アニメーション美術家）の3名をプレゼンターとしてお招きしました。



▲第1部の様子

テーマを多摩地域の「過去から現在」及び「現在から未来」の2つに分け、自然、文化、観光、産業、芸術分野など、各プレゼンターがそれぞれの立場から多摩のトピックを取り挙げ、自由に討議をしていただきました。どれも興味を引くお話しであったようで、観覧に来られた方々も興味津々な様子でした。

次に第2部では、首都大学東京の菊地俊夫教授の講演の後、多摩地域に所在する大学の中から6つの大学（桜美林大学、首都大学東京、玉川大学、中央大学、東京学芸大学、東京農工大学）の学生に壇上にあがっていただき、クイズ大会が行われました。

クイズは全部で5問出題されましたが、ただ単に学生がクイズに対して答えるというのではなく、観覧にこられた方も各々が正解だと思う色の札を上げ、それを参考にするなどして学生が解答し、その後、菊地教授に詳しく解説をしていただくといった、会場参加型の大会となりました。



▲第2部の様子

また、吉本興業のお笑い芸人「LLR」（東京都住みます芸人、多摩地域出身）にもお手伝いいただき、会場の雰囲気盛り上げていただきました。参加された方々からは、「多摩地域の魅力を再認識できた」「クイズがとても楽しかった」など、好評をいただきました。

「成長・拡大」の時代から「成熟・持続」の時代への転換点を迎え、いかにして活力と魅力にあふれた多摩を守り、育てていくのかを考えるきっかけとなったシンポジウムになったのではないかと思います。

シリーズ 島しょ地域の魅力を紹介!

第9回 (最終回) 小笠原村

このシリーズでは、東京の島しょ地域の魅力をお伝えするため、島しょ地域における、まちの取り組みや観光資源、役場の概要、職員の方へのインタビューなどを紹介しています。最終回となる今回は、小笠原村を取り上げます。

※シリーズ 島しょ地域の魅力を紹介! 第1回大島町、第2回御蔵島村、第3回神津島村、第4回利島村、第5回三宅村、第6回新島村、第7回八丈町、第8回青ヶ島村の特集は、自治調査会ホームページ(「What's New?」294号、295号、299号、301号、「ぐるり39」1号、2号、4号、5号)でご覧いただくことができます。

小笠原村とは?

小笠原村は小笠原諸島に属し、南は日本最南端の沖ノ島、東は日本最東端の南鳥島などの30余りの島々から成り立っています。これらの多くの島のうち、一般の人が住んでいる島は父島と母島で、父島は、東京の都心から約984km、母島は約1,033kmの距離にあります。

小笠原村(父島)の緯度は沖縄とほぼ同じで、亜熱帯に属しており、一年間を通じて温暖多湿な気候が特徴で、年平均気温は23℃です。

小笠原村は、1830(文政13)年までは無人島で、最初に住んだ人たちは欧米人と太平洋諸島民でしたが、1860(安政7)年ごろ、日本からの本格的な移民が始まりました。太平洋戦争中は多くの島民が強制的に島を離れることとなりました。戦後のアメリカ統治を経て、1968(昭和43)年、23年ぶりに日本に返還され、島民の帰島が進みました。

平成23年6月には、小笠原諸島が世界自然遺産に登録され、より一層自然と共生した村づくりが進められています。また最近では、平成25年末に海底噴火によって新島が現れ、小笠原諸島を構成する島の一つである西之島と一体化したことがメディアで紹介されています。



▲東京島しょ地域の概要

小笠原村へのアクセス

父島へのアクセスは、基本的には週に1回(繁忙期は3日に1回)、東京竹芝桟橋からの船便のみです。この定期船「おがさわら丸」は、竹芝桟橋から約25時間半の船旅を経て、父島に到着します。おがさわら丸の予約は、乗船日の2ヶ月前からとなっています(夏季、年末年始などの繁忙期を除く)。

母島へは、父島から「ははじま丸」に乗船し、約2時間10分かかります。おがさわら丸の入出港と合わせ、ははじま丸も運行されています。なお、ははじま丸は事前予約の必要がなく、父島到着後、チケットを購入します。



▲おがさわら丸*



▲ははじま丸*

～自然共生アイランド～

小笠原村



OGASAWARA

大小30余りの島々で構成される小笠原諸島は、大陸と一度も陸続きにならなかったことがないため、独自の進化を遂げた固有の生き物やその生態系を見ることができます。

小笠原村では、世界自然遺産に登録された貴重な自然を、人類共通のかけがえのない財産として将来に引き継いでいくため、村民をはじめ地元NPOや東京都、国とともに協力しながら、エコツーリズムに取り組んでいます。



▲下船時に外来種の上陸を防ぐ*



▲森林生態系保護地域



▲地元ガイドによる案内

父島の見所① (動植物)

アカガシラカラスバト

アカガシラカラスバトは「あかぼっぼ」の愛称で呼ばれ、国の天然記念物に指定されています。

小笠原諸島全体で100羽程度しか生息が確認されず、絶滅危惧種となっていますが、運が良ければ、ハイキングやトレッキング中に遭遇することもあります。



*

タコノキ

村の木にもなっている小笠原の固有種で、名前のとおり、タコの足のような姿が特徴です。

古くから、葉は伝統工芸のタコノ葉細工として利用され、実は味噌や黒砂糖と炒めて食べられています。



父島の見所② (戦跡)



太平洋戦争時、父島は本土にある大本営と硫黄島間の通信の取り次ぎや物資の中継点として、重要な役割を果たしており、母島とともに守備隊が置かれていました。終戦間近、激戦地硫黄島から最期の通信を受け取ったのは、父島の守備隊でした。

島内には、当時の日本軍が築いた防空壕や大砲などの戦争の跡が数多く残っており、その悲惨な歴史と平和の大切さについて、実感することができます。

シリーズ 島しょ地域の魅力を紹介!

第9回<小笠原村>

小笠原村の概要(平成25年4月1日現在)

- *位置 都心から南に約1,000kmの海上に位置する島
- *面積 104.41km²
- *人口 2,509名 世帯数 1,383世帯
- *歴史 小笠原諸島は、1830(文政13)年までは無人島で、最初に定住したのは欧米人とハワイを主とする太平洋諸島民でしたが、その後、江戸幕府や明治政府による調査・開拓により、日本領土として国際的に認められるようになりました。

*アクセス(船のみ)

- ・海路 航路 竹芝棧橋→小笠原諸島(父島)
 <小笠原海運株式会社>
 「おがさわ丸」(約25時間30分)
 父島→母島<伊豆諸島開発株式会社>
 「ははしま丸」(約2時間10分)

父島の見所③(絶景)

ちひろいわ
千尋岩 (ハートロック)

千尋岩は、標高250m近い断崖絶壁で、海から見ると赤土の部分がハート形に見えるため、ハートロックとも呼ばれています。

ガイド同行のトレッキングツアー(有料)に参加すれば、ハートロックの頂上部まで登ることができ、眼下には太平洋の大パノラマが広がっています。



▲千尋岩*



▲頂上部からのパノラマ

ウェザーステーション展望台

ウェザーステーション展望台は、島の北西端にある三日月山に建てられた展望テラスで、海に沈む雄大な夕日を見ることができます。

晴れた日には母島の姿を見ることができ、1月～4月はホエールウォッチングも可能です。また、夜はスターウォッチングにも最適な場所です。



▲水平線に沈む夕日*



▲展望台からの眺め*

父島の見所④(各種センター)

父島には、自然や絶景以外に、雨などの天候不良時にも楽しむことのできる見所がたくさんあります。

小笠原ビジターセンター

ここを訪れば、小笠原の歴史と自然について知ることができます。パネルや映像だけでなく、帆走時代の姿を復元したカヌーなども展示してあります。



小笠原水産センター

東京都の水産試験施設で、資源保護や養殖漁業の研究などを行っています。小笠原近海に生息している魚貝類を見学できるほか、アカバ(アカハタ)という魚の歯磨きも体験できます。



小笠原海洋センター

アオウミガメの保護増殖を目的とした施設です。アオウミガメの飼育をしており、身近に観察することができます。また、展示館でウミガメに関する調査報告や標本の展示も行っています。



母島の見所① (北港)

母島で現在、人が居住している地域は南部の沖港周辺の地域です。昭和19年の強制疎開までは、母島にも沖港周辺の沖村と北部に位置する北港周辺の北村の2村がありました。北村でも450人以上が生活していましたが、今ではこの地域には居住者はおらず、わずかに小学校跡地の石垣や北港にその名残があるのみとなっています。

現在の北港は、遊歩道の出入り口となっているほか、シュノーケリングが楽しめる場所にもなっています。



▲北港

母島の見所② (都道最南端)

母島には都道の最南端があります。北緯26度37分、東経142度11分の小笠原村母島南崎がその最南端となっています。

観光スポットの南崎や小富士などへ向かう遊歩道の出入り口になっていて、駐車場もあります。



▲都道最南端の表示 (写真右側は遊歩道の入口)



▲南崎*



▲小富士*

母島の見所③ (ローズ記念館)

耐火性に優れ加工がしやすいローズ石という母島特産の石で作られた郷土資料館です。建物はもともと砂糖倉庫として使用されていたもので、昭和59年に東京都指定文化財に指定されています。昭和60年、現在地に移築復元され、ローズ記念館として開館しました。

館内には、かつての母島での生活の様子がうかがえる古い写真や民具などが展示されています。

なお、記念館の屋根は、太平洋戦争前の民家の屋根を保存伝承するため、小笠原固有のヤシ(オガサワラビロウ)の葉で葺いています。



▲館内の様子 (壁面に写真、ケースに道具類が並ぶ)



▲外観 (外壁がローズ石)

有償運送について

北港や南崎への移動は、レンタカーやレンタバイクもありますが、山道なので不安のある方は有償運送*がお勧めです(島内にはタクシーはありません)。詳しくは母島観光協会(TEL 04998-3-2300)へ。

*有償運送とは、自家用自動車による乗合タクシーのことで、公共交通機関がない地域において、法律で認められた交通手段です。

小笠原村役場(平成25年4月1日現在)

所在地 〒100-2101
東京都小笠原村父島西町
村長 森下 一男(もりした かずお)
職員数 121人
財政 決算収支(普通会計)(平成24年度)
歳入:4,618百万円 歳出:4,434百万円
主産業 観光業、農業、漁業



▲森下一男村長*



▲小笠原村役場

シリーズ 島しょ地域の魅力を紹介!

第9回<小笠原村>

村の名産(フルーツ)

亜熱帯の気候を活かして、パッションフルーツやマンゴーなどのフルーツの栽培が行われています。父島よりも母島で多く栽培されており、母島の中でも南部地域が盛んです。

これ以外にも色々なフルーツがありますので、ぜひ食べてみてはいかがでしょうか。



▲パッションフルーツ栽培の様子



▲フルーツなどを栽培しているハウス

(台風被害軽減のため、ハウス内で栽培するケースが多いようです)



▲パッションフルーツ*



▲マンゴー*



▲島レモン*

役場職員インタビュー



小笠原村村民課住民係
はやし まさみ
林 雅巳さん

平成24年4月入庁。現在は村民課で介護保険・国民年金・交通災害共済などに携わっている。

林さんが小笠原村へ就職するきっかけは?

東京都の広報誌に小笠原村役場の職員募集が掲載されているのを見ました。折しも、世界自然遺産登録で盛り上がっている時期で、それが採用試験受験のきっかけでした。

それまでは一度も村を訪れたことはありませんでしたが、受験のため実際に来島するととても気に入り、就職したいとより強く思いました。

村の重点施策は?

空港の整備です。自然環境との折り合いを付けながら、小さくても毎日の足として村民のための空港を早く実現させたいです。仕事柄、年配の方が内地に医療サービスを受けに行く大変さを考えると、なおさらそう思います。

小笠原村を訪れる方へメッセージをお願いします!

小笠原村は、わずか100年余りの間に移り住んできた人たちがかりの村です。人間としてフランクな人や個性的な人が多く、住民と触れ合うと楽しいと思います。

もちろん、色々なメディアで紹介されているように、固有種をはじめ自然もいっぱいです。

皆様のご来村を心よりお待ちしております。

取材協力、図・写真提供(*印) / 小笠原村

平成26年度

調査研究テーマについて

当調査会では、多摩・島しょ地域の市町村の広域的・共通的課題を中心に、年度ごとにテーマを複数選定して単年度調査研究を実施しています。各年度の調査研究報告書は、多摩・島しょ地域の市町村などに配布するとともに、ホームページ(<http://www.tama-100.or.jp/>)にも掲載しています。

平成26年度は、5件の調査研究について実施を予定しており、今回はその概要を紹介します。

市町村の公共施設の運営に関する調査研究

自治体の保有する公共施設は、その多くが高度経済成長期からバブル期にかけて建設され、今後、一斉に耐用年数に達するため、その維持更新が各自治体で大きな課題となっています。

そこで、多摩・島しょ地域及び他地域における公共施設の現状を把握するとともに、広域化や多機能化など、効果的・効率的な運営方法について多角的な視点から検討します。

自転車とまちづくりに関する調査研究

自転車は、手軽で便利な交通手段として私達の生活に定着しており、環境に優しく、利用者の健康増進にも寄与し、まちの回遊を促すなど優れた特性を持っています。

そこで、多摩・島しょ地域の現状や特性を踏まえ、特に自転車の優れた面に着目し、商業活性化や観光振興、健康増進など幅広い観点から、まちづくりへの効果的な活用方法について検討します。

ご当地キャラクターの活用に関する調査研究 ～多摩・島しょ発!ご当地キャラクター!!～

現在ご当地キャラクターは、多くの地域で生み出されています。しかし中には、地域活性化や全国的な知名度アップに向けて課題を抱えているものも少なくありません。

そこで、全国や多摩・島しょ地域のご当地キャラクターについて分類化などを行い、その制作目的・活用状況・課題などについて調査を実施し、今後の多摩・島しょ地域におけるご当地キャラクターの活用方法について検討します。

島しょ地域における自治体の定住促進策に関する調査研究

東京の島しょ地域の人口は、平成17年をピークに減少し、少子高齢化も全国平均を上回る速度で進展しており、人口流入や定住化に向けた対策が求められています。

そこで、全国の過疎地域や島しょ部における定住促進に向けた事例、東京の島しょ地域町村で行われている支援策・課題などについて調査を行い、今後の東京の島しょ地域における定住促進策について検討します。

多摩・島しょ地域における火葬場の需給及び運営に関する調査研究

現在、多摩地域では9つの火葬場がありますが、死亡から火葬に至るまでの待機期間が生じているのが実情です。今後、団塊の世代が平均寿命に達することを踏まえ、多摩・島しょ地域に設置されている火葬場の現況を把握するとともに、将来の需給予測を行います。そのうえで、他地域の事例などを通して地域間格差や火葬場を設置する場合の課題などを調査し、効果的な運営方法について検討します。

多摩地域データブック ～多摩地域主要統計表～ 2013(平成25)年版を発行します

多摩地域データブックは、国や東京都が発行する人口、産業、福祉などの各種統計資料から、多摩地域の市町村に共通するデータを収集し、市町村の状況を比較できるようにまとめたものです。

今回発行する平成25年版は、おおむね平成25年12月までに発表された統計データを収録しており、3月下旬に発行を予定しています。最寄りの市役所、町・村役場や図書館などでお手にとってご覧ください。また、自治調査会ホームページ (<http://www.tama-100.or.jp/>) にも掲載します。

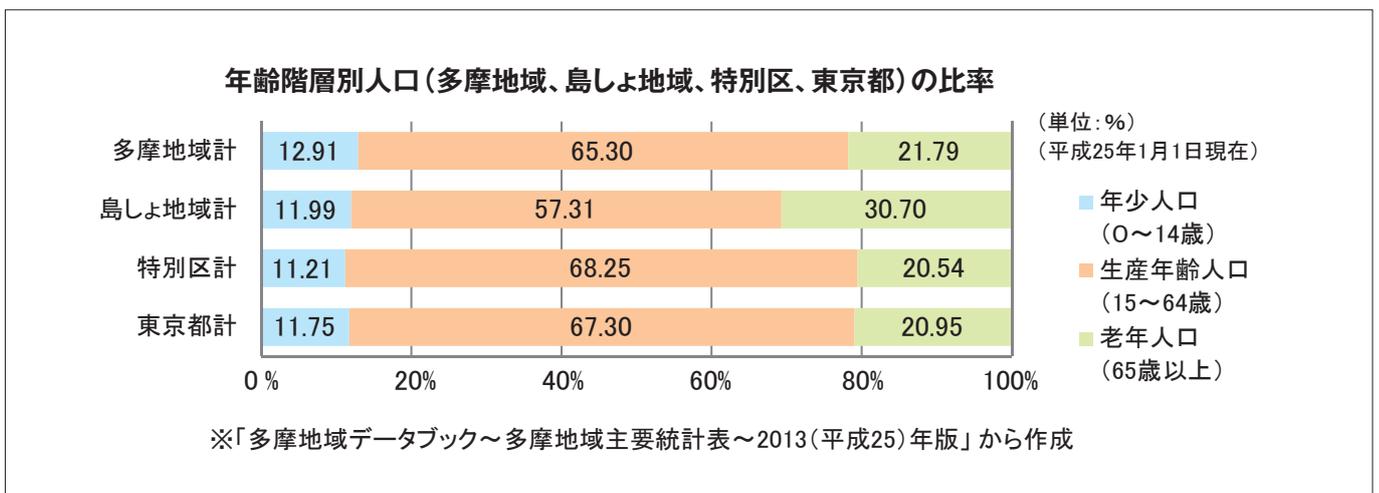
統計を通じて多摩地域に対する理解を深めるとともに、今後のまちづくりを考える上での基礎資料としてご活用いただければ幸いです。

活用例 多摩地域データブックで見る多摩地域の人口 ～年齢階層別人口～

活用例として、本書から、多摩地域、島しょ地域、特別区、東京都全体における年齢階層別人口の状況を比較することができます。

下表は、地域別に年少人口、生産年齢人口、老年人口の構成を表したものです。

例えば、多摩地域と特別区との比較では、労働力の中心となる生産年齢人口（15～64歳）の構成比率が、多摩地域では65.30%で、特別区より低い数値であることが分かります。また、年少人口（0～14歳）及び老年人口（65歳以上）については、いずれも多摩地域が特別区より高い数値となっていることが分かります。



また、多摩地域データブックでは、各市町村のデータも掲載していますので、市町村ごとの比較をすることも可能です。

【参考】各年齢階層の人口の比率が高い多摩地域の自治体(上位3団体) (平成25年1月1日現在)

年少人口(0～14歳)		生産年齢人口(15～64歳)		老年人口(65歳以上)	
①稲城市	15.62%	①小金井市	68.59%	①奥多摩町	43.22%
②武蔵村山市	15.31%	②武蔵野市	68.25%	②檜原村	43.19%
③東大和市	13.85%	③三鷹市	67.91%	③日の出町	29.61%
多摩地域計	12.91%	多摩地域計	65.30%	多摩地域計	21.79%
東京都計	11.75%	東京都計	67.30%	東京都計	20.95%

※「多摩地域データブック～多摩地域主要統計表～2013(平成25)年版」から作成



多摩交流センターだより

インターネット
放送による

多摩発・遠隔生涯学習講座

NPO法人全国生涯学習ネットワーク・公益財団法人東京市町村自治調査会共催
後援：武蔵野市教育委員会



3月・4月予定の講座案内

121回

日時 平成26年3月13日(木) 午後2時30分から約1時間
題名 全国から注目される「いなぎICカレッジ」の現状
講師 菅田 紀夫 氏(いなぎICカレッジ理事長)
内容 いなぎICカレッジは、稲城市生涯学習推進計画に基づいて、平成15年10月稲城市教育委員会の主催事業として設立され、10年が経過しました。税に頼らず、受講料による企画運営を20名のボランティア理事が担っています。ICカレッジの理念・これまでの発展経緯、実績やエピソードについてお話しします。

122回

日時 平成26年4月10日(木) 午後2時30分から約1時間
題名 土方歳三の愛人 花魁高尾太夫と土佐山内容堂
講師 村瀬 彰吾 氏(新撰組のふるさと歴史館初代館長)
内容 歳三という人は、若い頃から、独りで行動することの多かった人である。今日も、浅草へ来て、どぜうを食べている。だが、浅草が目的ではなく、これからの行く先は吉原である。馴染みの太夫に会いに行くのだが、そのお相手とは、花魁の中でも筆頭と言われる高尾太夫である。座敷に上がるのも、簡単ではない。そこへ、歳三にとって強力な恋敵が現れた。土佐24万石藩主、山内容堂である。さて、この騒動の顛末は……
※これは、浅草老舗『駒形どぜう』に伝わる聞き書きである。

- 受講料** 無料(ただし資料代100円) ○**サテライト会場** 武蔵野市かたらいの道
- 講座場所** 多摩交流センター 第2会議室(申し込みは必要ありません。直接会場にお越しください)
- ライブ中継・VOD視聴について** 多摩発・遠隔生涯学習講座のホームページ(<http://zsgn.dp-21.net/tsgn/>)から無料で、当日の講座視聴(ライブ中継)、過去の講座を視聴(VOD視聴)することができます。

問合せ先: TEL 080-3427-9848(高原) TEL 0422-52-0908(菅原)



特定非営利活動法人

東京雑学大学

4月講義案内

(会員は受講料無料・会員外は4月10日(木)を除き、1回につき500円)

番号	日時	講義テーマ	教授	教場
第933回	4月3日(木) 午後2時から	賢い相続・贈与	原 孝雄 氏 (行政書士&CFP)	西東京市民会館 (西武新宿線田無駅北口 徒歩7分)
第934回	4月10日(木) 午後2時30分から	土方歳三の愛人 花魁高尾太夫と 土佐山内容堂	村瀬 彰吾 氏 (新撰組のふるさと歴史館初代館長)	遠隔視聴(サテライト)会場 武蔵野市かたらいの道 (JR三鷹駅北口 徒歩3分)
第935回	4月17日(木) 午後2時から	光源氏は暗殺されたのか	川口 順啓 氏 (金沢学院大学客員教授)	西東京市民会館 (西武新宿線田無駅北口 徒歩7分)
第936回	4月24日(木) 午後2時から	ワインのタイプによって 適した温度は?	藤原 正雄 氏 (株)ワイン総合研究所取締役、元サッポロビール部長)	柳沢公民館 (西武新宿線西武柳沢駅南口 徒歩1分)

☆申し込みは必要ありません。直接会場へお越しください。

[詳細問合せ先] TEL 042-465-3741(浅田) TEL 0422-52-0908(菅原)

TAMA市民塾・日曜講座のお知らせ



第97回

芭蕉のもう一つの顔

—〈挨拶〉と〈和合〉—

【講師】和田 博通氏

東京大学大学院国文科修了。近世後期の散文文学(いわゆる戯作)を専攻し、特に十八世紀後半の江戸文化を中心に考察を続けている。職歴は、国文学研究資料館助手を経て山梨大学教授を務めた。現在は、山梨大学名誉教授。

【内容】 松尾芭蕉は、江戸期を代表する優れた俳人であり、彼の文学に対する姿勢が真摯であった事はよく知られています。

しかし、必ずしも個性の強い作家ではありませんでした。彼の創作活動は協調性に富み、他者を尊重する姿勢がしばしば見られます。それは、彼の文学が「近代俳句」とは性格を異にする「俳諧」(はいかい)であったことと深く結びついています。当時、俳諧は共同体の文芸であり、芭蕉の文学活動が時として、俳諧共同体の中で行われたことを意味していたからです。

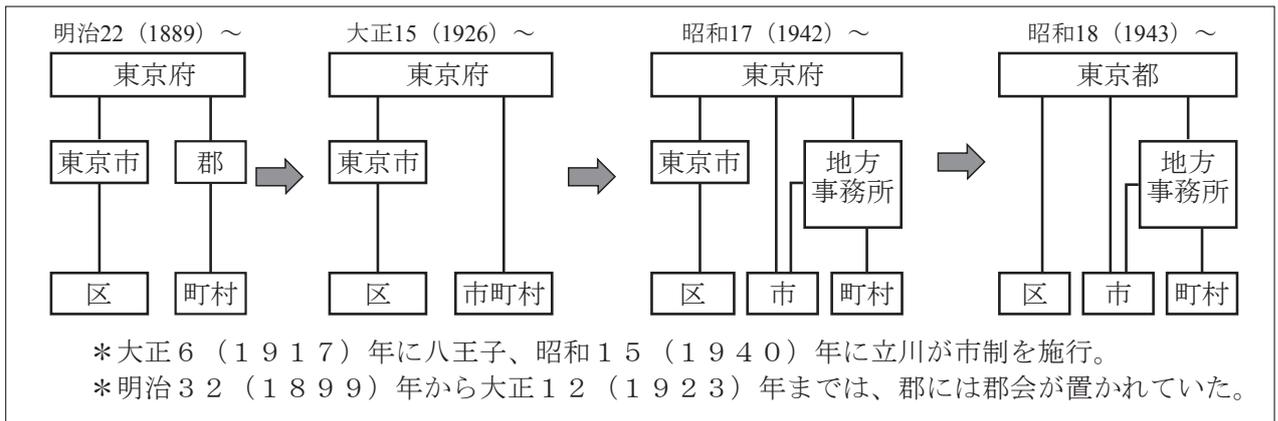
今回の講座は、こうした視点から、芭蕉を読み解く機会にしましょう。

日時	平成26年4月20日(日) 午後 2時~4時	申込方法	当日会場にお越しください。 先着50名までとさせていただきます。
場所	多摩交流センター会議室 京王線府中駅北口 府中駅北第二庁舎6階 (府中市寿町1-5-1)	受講料	無料
		問合せ	多摩交流センター内 TAMA市民塾 TEL 042-335-0111

「多摩市町村のあゆみ」掲載内容訂正のお知らせ

2月1日に発行いたしました「多摩市町村のあゆみ」につきまして、内容に一部誤記がありましたので、ここにお詫びして訂正させていただきます。

- ◇18ページ コラム欄本文3行目 誤:「日本橋から半径4里」 → 正:「東京駅から半径10マイル」
- ◇22ページ 「〈図2〉東京都の行政制度の仕組みの変遷」を以下に差し替え。

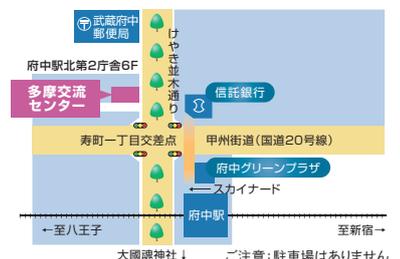


※正誤表 (カラー刷り) をご希望の方は、多摩交流センターへお問い合わせ下さい。

「多摩交流センターだより」の問合せ先

(公財) 東京市町村自治調査会多摩交流センター

〒183-0056 府中市寿町1-5-1 府中駅北第二庁舎6階
TEL 042-335-0100 FAX 042-335-0127 Eメール tama001@tama-100.or.jp
ホームページ <http://www.tama-100.or.jp/>



とっておき特産物

第34回 日の出町

完熟ひのでトマト

ひのでトマトは、30年以上前から生産されている日の出町の特産品です。

収穫期は、1月から6月。暖かいハウスの中で有機肥料を使って大切に育てています。完熟出荷で、旨み成分グルタミン酸が通常のトマトの2倍も含まれる自慢の「ひのでトマト」を、ぜひお楽しみください。



ひので塩田農産物普及センター
東京都西多摩郡日の出町平井2775番地

TEL 042-597-1009

URL <http://store.shopping.yahoo.co.jp/hinodemachi/>



みやび工房のくんせいチーズ

独自の桜チップ100%で、じっくり丹念にスモークしたみやび工房のくんせいチーズ、くんせいナッツです。

香ばしくて、味わい深い美味しさが評判。開封前は常温保存OKなので、お土産品として是非どうぞ。



有限会社みやび

東京都西多摩郡日の出町大久野2214番地

TEL 042-597-0601

URL <http://www.miyabi2000.co.jp/ohtama.html>

記事、写真提供：

日の出町サービス総合センター（株）

TEL 042-597-1009

【発行日】平成26年3月1日

【発行】公益財団法人 東京市町村自治調査会

【責任者】石井恒利

〒183-0052東京都府中市新町2-77-1 東京自治会館4F TEL 042-382-0068

ホームページ <http://www.tama-100.or.jp/>